



鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

第106号

発行:2015年2月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守



再び「横浜ほうゆう病院」について

～BPSDでお困りの方は当院へ～

横浜ほうゆう病院 院長 日野 博昭

「横浜ほうゆう病院」は平成13年4月1日に現地に開院しました。当時は、「ほうゆう病院」という名称でしたが、前院長で横浜市大名譽教授の小阪憲司先生が外国人から当院を検索しても同名の病院がたくさんあって分からないと言われ、「横浜」を加えて現在の名称となりました。診療科は精神科（認知症外来）・内科で、入院病棟は認知症治療病棟入院料1を算定しています。病床数は207床でスタートし、平成23年7月に215床へ増床しています。また、重度認知症デイケアも併設しています。

当院の病院理念は「みなさまに喜ばれ愛される認知症に特化した医療を提供します」としています。また、基本方針は

1. みなさまから信頼される病院を目指します
 2. サービスの向上に努めます
 3. 安全で質の高い医療を提供します
 4. 健全な病院経営に取り組みます
 5. 地域の医療機関との連携を密にします
- これらを基に病院運営を行っています。

当初は入院対応が中心でしたが、小阪前院長の就任後は外来患者が急増しました。ここ数年は年にのべ10,000人前後が受診され、平成25年度には400件を超える新患が来院しています。やはり、旭区からの受診が多く、次いで瀬谷区・保土ヶ谷区・泉区と近隣から来られる方が多くなっています。このような経過から当初は1室しかなかった外来診察室を平成23年に改装し、診察室4室の他、処置室、面談室を設置しました。これに伴いデイケア室も別棟に移転させ、より広いスペースで運営しています。その後、これまではなかった売店も院内に作りました。

さて、昨年11月7日旭区民文化センターにて行いました“医療法人社団鵬友会創立30周年記念講演会”では「認知症治療において、いかに当院を選んでいただくか」、「今ここにある病院として地域の中でどんな役割を担うべきか」という2つのテーマを上げました。当院の地域別入院・外来患者

状況は前述のとおり旭区、瀬谷区などの医療圏としては、横浜市西部地区からの患者さんが約6割で、その約9割が病院や診療所などからの紹介となっています。他の横浜市内や横浜市近辺からの患者さんもいらっしゃいますが、当院は地域連携をより重視し、今後も近隣の医療機関との連携を推進していきます。また、当院では認知症鑑別診断を行っています。物忘れ外来を行う診療機関は多くなってきましたが、当院は1回の受診で問診から画像診断、診察までを行い、鑑別診断が（他院での核医学検査など追加が必要でなければ）原則1度の受診で終了します。多くの物忘れ外来は初診、検査、結果など最低でも2～3回の受診が必要で、少なくとも鑑別診断に1か月以上はかかることが一般的ですが、当院は1度で済みますので治療や介護サービスなどの開始を早くすることができます。早期に診断を行い、早い時期から医療・介護の支援をしていくことは在宅の時間を少しでも伸ばすことには有効な対策になります。その他、認知症治療薬の治験にも参加しており、エントリーの条件はありますが、ご興味がある方はお気軽にご相談ください。介護の問題などは、外来患者さんとそのご家族を対象に「看護相談外来」を行っています。専門の看護師が日常生活で困っていることを一緒に考え、当院の多職種とも連携して解決を探ります。当院を選んでいただくために当院が提供している認知症医療の特徴をあげてみました。

入院患者数はここ数年減っており、昨年度は1日平均患者数203.3人、病床利用率93.2%と低下してきています。以前の病床利用率は96%以上でしたが、最近は介護保険関連施設やグループホーム、サービス付き高齢者向け住宅も充実しており、介護老人保健施設では患者の奪い合いになっているという話も聞きます。当院ではここ数年、医師をはじめスタッフの数も充実し、即日の入院にも対応し、入院までの待ち時間も短縮されてきています。BPSD（行動・心理症状：暴力、徘徊、幻覚、妄想など）でお困りの方は是非一度、当院の地域医療連携室へご相談いただければと思います。

平成26年度
鵬友会合同 看護係長・主任研修を開催しました。

H27.1/24 (土) 湘南泉病院 会議室

平成27年1月24日(土)9時~17時、鵬友会各施設の看護係長・主任が参集し、鵬友会合同看護係長・主任研修が行われました。

まず初めに池島常務理事の講話の中で、平成26年4月に行われた診療報酬改定について、病院を取り巻く社会情勢や動向について将来像も交えて分かり易く説明し、後半には、看護係長・主任に求められている役割について、具体的な例を挙げながら述べました。



池島 常務理事



永澤 顧問



佐藤 看護部長

続く、永澤顧問は【抑制の今までとこれから】をテーマに、「抑制のあり方については、各施設の特徴がありますが、看護の視点により違ってくると、患者さんの生活の質を上げることで抑制を減らすことができるのではないか」と述べ、各自に問題を投げかけました。

次に、横浜ほうゆう病院 佐藤看護部長より、「リスクマネジメントと社会人基礎力」をテーマに、経済産業省が提唱している、医療・介護分野にも応用できる“社会人基礎力”についての重要性をわかり易く述べ、各自の課題克服と成長を促しました。

研修会前半最後には、横浜ほうゆう病院 宇山看護係長による研修報告、湘南泉病院 在宅医療部 黒田看護係長による学会報告がありました。

後半のグループワークでは、抑制に対する各施設の考え方の違いなど、それぞれの立場でディスカッションし、学びを深めました。



宇山 看護係長



黒田 看護係長



全体風景



【グループワーク】



【グループワーク】



節分 ~豆まき~ 「鬼は外! 福は内!」



デイケア・サンアリス



横浜保育室ほうゆう



横浜保育室ほうゆう



阿久和鳳荘

今年も節分の豆まきを、利用者様や園児とともに行いました。豆をまいて季節のかわりめの邪気をはらい、福を内に取り込んで、皆さんの無病息災を願いました。

Q.なぜ、節分に豆まきをするのでしょうか?

A.「鬼=魔」

「魔(ま)を滅(め)する」という言葉から、

その年が無病息災で過ごせるようにと、豆をまくようになりました。